

前回の報告書にインターンを夏にするということを予告していましたが、現在Google@Mountain Viewにてインターン真っ只中です。書けることは少ないですし、私個人の感想ですが、今回の報告書ではインターン中の生活について書きます。（書けないことしか思いつかないので、今回は写真多めです。。。）



インターン初日のオリエンテーション集合場所
(Café Hangoutという名前に興奮して写真を撮りました。)

インターン中の生活

今まで長い学生生活を送ってきたせいか、企業で働くということに憧れのようなものを持っていました。MIT Media Labに所属していた当時の報告書を読み返すと、同期の学生たちがGoogleやNokiaなどの自分が知っているプロダクトの開発に携わっていたという事実に、高い壁を感じていたように感じます。留学が終わった一年後の夏、何人かの同期は様々な企業のインターンに行っていたことに劣等感も感じていました。前回の報告書にも書いた通り、Computer Science専攻でない自分には不可能な話なのだろうと思っていました。そういったことを思っていたものの、その場所に辿り着いてしまうと、それが普通のように感じるものです。



Noogler (入社したてのGoogler)に配られるキャップ

Googleでのインターンシップを題材にした映画ができるほど世間に認知度が高くなりましたが、フリーフードがあることがよく取り上げられます。大学のフリーフードはおいしくないことや健康的でないことが多いため、あまり食べない自分としては気にもとめていませんでしたが、Googleでの食事は自分で気をつければ健康的な食生活を送れるほど選択肢が多いので、大変助かっています。特に、朝食や昼食やお菓子の心配をしなくて良いということが自分の自由な時間を増やしてくれるため、精神的に楽になるということを感じます。自由に利用できるジム（大学にもありますが、、、）やコーヒーショップ、シューズバーなどの施設の充実はもちろんのこと、料理教室や映画上映会など仕事外のアクティビティも充実していることは驚きでした（一度も利用していませんが。。。）。そういったアクティビティが通常の勤務時間内に存在することが未だに信じることができません（一体、いつ仕事しているんだ。。。？）。

このような常識外の社風を作り出していったIT企業としてGoogleは知られていますが、近年では優秀な研究者は全てGoogleに吸い込まれていくというブラックホール的な企業としても知られています。私の研究分野でも、優秀な博士課程の学生や有名な教授が何人もGoogleで働き始めることを見てきました。もちろん、そういった研究者たちが社内で何をやっているのかを多くの場合知ることはできません。しかしその一方で、社内に入ってさえしまえば、インターンの学生でもフルタイム勤務者とほぼ同等に社内の情報を見ることができるオープンな環境であり、大学よりもコラボレーションがしやすい環境なのかなと感じます。大学での研究と違い、個人的な競争でないので、このようなコラボレーションがしやすい環境になのかもしれない。

個人的な仕事としては、先日Google I/Oで発表されたGoogle独自のVRプラットフォームとなるDaydreamのチームに所属して仕事しています。Googleの新しいプロダクトに関わることができるのは楽しいです！フルタイム勤務と違い、学生であればビザの取得も簡単なので、日本に住んでいる場合でもGoogle本社で働いてみたい場合は是非アプライを！